

スポーツバックを使うには(つづき)

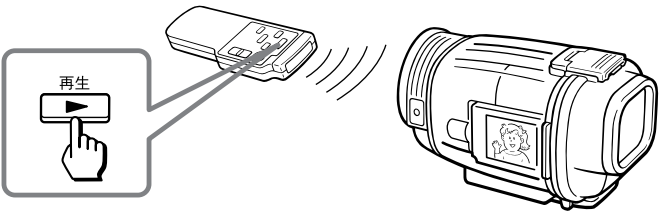
7 リモコンを使って画像を見る。

液晶付きハンディカムをお使いのときは、ハンディカムのリモコンを使って液晶画面で画像を見ることができます。ただし、CCD-TRV30、TRV60はこの操作はできません。音声は聞こえません。

- ミラーフードを取りはずす。
(「**3** スポーツバックを開ける。」を参照。)
- 電源スイッチを「PLAYER」にする。



- リモコンの▶を押す。



その他の操作(停止、巻戻し、早送り)もすべてリモコンで行ってください。

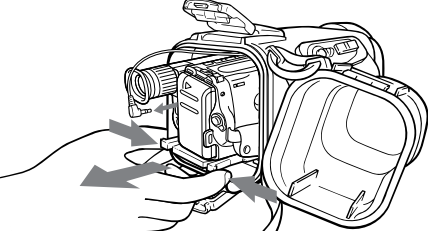
ご注意
液晶画面のついていないハンディカムでは、電源スイッチを「PLAYER」にしても操作できません。カメラモードになる機種もあります。

8 ハンディカムを取りはずす。

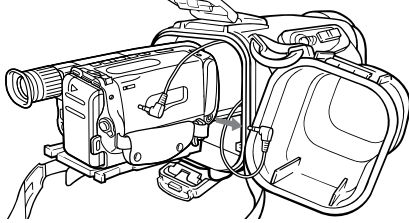
- バックルをはずして、後部ボディを開ける。
(「**3** スポーツバックを開ける。」を参照。)
- ハンディカムのスタンバイスイッチを「ロック」にする。



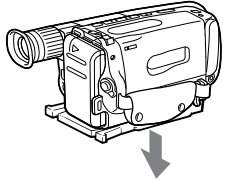
- 台座の両側のノブを押さえるようにしてつかみ、ハンディカムをゆっくり引き出し、リモートプラグが前部ボディの外に出てきたところでいったん止め、リモートプラグをはずす。



- マイクプラグが前部ボディの外に出てきたところでいったん止め、マイクプラグをはずす。



- ビューファインダーアダプターを取りはずす。
- 台座を取りはずす。



取り扱い上のご注意

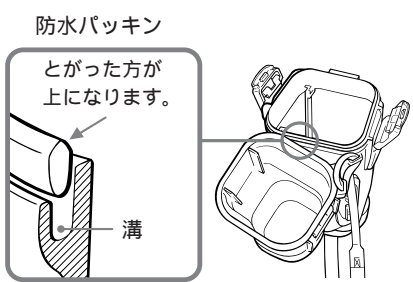
- 本体の前にあるガラス面に強い衝撃を与えないでください。割れることがあります。
- 海辺や海上でのスポーツバックの開閉はできるだけ避けてください。ビデオカメラレコーダーの取り付けやテープ交換などは、湿気の少ない、潮風のあたらない場所で行ってください。
- 高温多湿な場所でスポーツバックの開閉をした後、寒い所や水中へ持っていくと、スポーツバック内部で結露現象が起こり、ガラス面が曇ったり、ビデオカメラレコーダーの故障の原因となります。
- スポーツバックの防水性能は、防水バッキン、およびその接触面で保たれています。これらの部分に物をぶつけたり、異物をはさみこんだりして傷をつけないよう、充分注意してください。
- 炎天下に長時間放置しないでください。内部の温度が上昇し、ビデオカメラレコーダーの故障の原因になります。
- 40℃を越える温水の中では使用しないでください。水漏れの原因になります。
- 周囲温度約40℃のご使用は、連続1時間以内にしてください。約35分連続撮影が可能です。
- 直射日光の当たる場所に置く場合は、上からタオルなどをかけておいてください。
- スポーツバックを水中に投げ込まないでください。
- 寒冷地でお使いの時は、バックなどに入れて極端に冷えないようにし、撮影するときのみバックから出して使用するようにしてください。
- 周囲温度0℃以下のご使用はおすすめできませんが、どうしてもご使用になる場合は、スポーツバックを保温材などで包んでください。

水もれについて

万一内部に水滴などが確認された場合は、なるべく早く水から上げてください。ビデオカメラレコーダーが濡れた場合は、至急お近くのソニーサービス窓口へお持ちください。

防水バッキンについて

- 防水バッキンの傷やヒビ割れは浸水の原因になります。防水バッキンを溝からはずすときに、とがったものや金属を使うと、溝に傷をつけるおそれがありますので使用しないでください。傷ついたら直ちに新しいものと交換してください。
- 防水バッキンを装着するときは、防水バッキン全面にシリコングリスを薄く塗り、とがった方を上にしてねじれたりしないように注意しながら入れてください。



- 防水バッキンに、付属のシリコングリスを指先で全面に薄く塗ってください。防水バッキンの摩耗を防ぎます。布や紙にシリコングリスをつけて塗ると、繊維が防水バッキンに付着することがありますので使わないでください。付属のシリコングリス(No. 2-115-921-01)がなくなったら、ソニーサービス窓口にてお買い求めください。

- 防水バッキンの交換は交換するときは防水バッキン(No. 3-960-758-01)をソニーサービス窓口にてお買い求めください。バッキンの寿命は、使い方によって異なりますが、防水性能を維持するため1年に1度の交換をおすすめします。

- 防水バッキン交換後の水もれの確認方法防水バッキン交換後はビデオカメラレコーダーを収納する前に、スポーツバックを開じて、水中(15cm位)に約3分間沈めて、水もれがないことを確認してください。

使用後の開けかたについて

スポーツバックを開けるときは、スポーツバックと身体についた水分を充分にふき取ってから開け、水滴が内部のビデオカメラレコーダーにかからないようにご注意ください。

故障かな?と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に作動しないときは、お買い上げ店、ソニーのサービス窓口、またはお客様ご相談センターにお問い合わせください。

- 音声が記録されない
ハンディカムのマイク端子にマイクプラグをしっかりと差し込む。
スポーツバック内部に水滴がつく
バックルをカチッとロックされるまで締める。
防水バッキンを正しく装着する。
防水バッキンに傷、ヒビ割れが入っている場合、新しいものと交換する。
- 撮影ができない
バッテリーパックを充分に充電する。
リモートプラグをリモート端子にしっかりと差し込む。
テープが終わりになっている場合、別のカセットを入れる。またはテープを巻戻す。
カセットの誤消去防止つまみを戻す。または別のカセットを入れる。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受けとりください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへお買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証書は国内に限られています。付属している保証書は、国内仕様です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証期間経過後の修理は修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。当社ではスポーツバックの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。
型名：SPK-TRV2
故障の状態：できるだけ詳しくお買い上げ日

材質	プラスチック(PC、ABS)、ガラス
防水構造	防水バッキン、バックル
耐圧	水深2mまで
外部より操作可能な機能	撮影・再生時の電源入/切、録画開始/停止、ズーム操作
最大外形寸法	277×173×274mm(ミラーフード装着時)×幅/高さ/奥行き)
質量	約950g(本体のみ)
付属品	ショルダーベルト(1本)、汎用台座(A、B、C、D各1個)、ミラーフード(1個)、ミラーフードベース(1個)、本体に装着済み)、ビューファインダーアダプター(1個)、シリコングリス(1個)、くもり止めキット(1式)、クッション(2個)、取扱説明書(1部)、保証書(1部)、ソニーご相談窓口のご案内(1部)、水中機材用損害保険のご案内(1部)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

ソニー株式会社 〒141 東京都品川区北品川6-7-35


お問い合わせはお客様ご相談センターへ
東京(03)5448-3311 名古屋(052)232-2611 大阪(06)539-5111

スポーツバック

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。お使いになる前に、この取扱説明書をお読みください。お読みになったあとは、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

必ずお読みください。
●必ず事前に、正常に動作するか、水漏れはないかを確認してください。
●万一、スポーツバックの不具合により水漏れ事故を起こした場合、内部機材(ビデオカメラレコーダー、バッテリーなど)の損傷、および記録内容や撮影に要した諸費用などの補償は、ご容赦ください。
●スポーツバックおよび内部機材に対するソニー水中機材損害保険を用意してあります。案内書をお読みのうえ、加入されることをおすすめします。

 純正マーク
この純正マークは、ソニー(株)のビデオ機器関連商品が純正製品であることを表わすマークです。ソニー(株)のビデオ機器をお求めの際は、純正マークもしくはソニーロゴタイプが表示されているビデオ機器関連商品をご購入されることをおすすめします。

SPK-TRV2

Sony Corporation ©1997 Printed in Japan

はじめに

お手持ちのソニービデオカメラレコーダーハンディカム®に本機を取りつけると、雨天時や海辺(水中では2m以内)での撮影ができます。ただし、波が高い場所でのご使用はお避けください。長時間の水中撮影をする場合は、別売りのマリンバックをご使用ください。

使用可能機種 CCD-TR1、TR2、TR3、TR11、TR12、TR230、TR555、TR3300、TR250、TR270
CCD-TRV11、TRV20、TRV30、TRV60、TRV71、TRV91、TRV92、TRV101、TRV201

準備

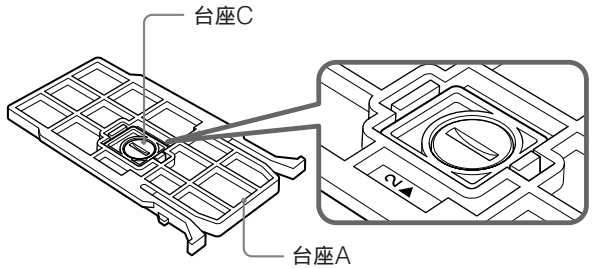
お手持ちのハンディカムに合わせて取り付ける台座を準備します。

1 下の台座表で、お手持ちのハンディカムに合う台座（A、B、D）と矢印番号を選ぶ。

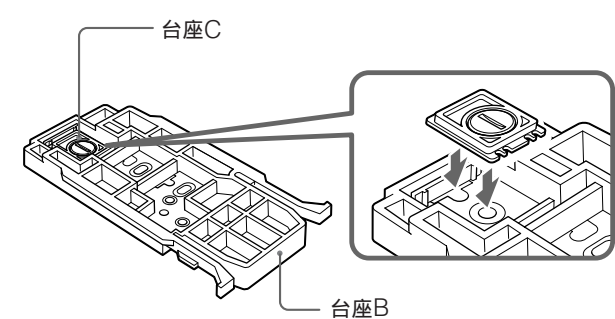
2 台座に書いてある矢印番号に合わせて、台座C（コイン大のもの）を取り付ける。

台座表		
台座	矢印番号	ハンディカム
A	1	CCD-TRV71, TRV91, TRV201
	2	CCD-TR12, TR3300
B	1	CCD-TRV30, TRV60
	2	CCD-TRV11, TR230, TR250, TR270
	3	CCD-TR1, TR2, TR3, TR11, TRV20
	4	CCD-TR555
	5	CCD-TRV101
	6	
D	1	CCD-TRV92
	2	

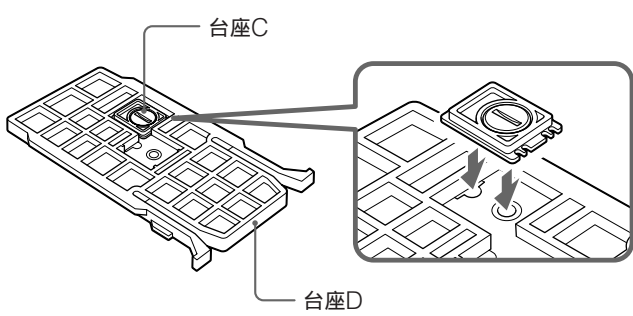
台座Aと台座Cの取り付け



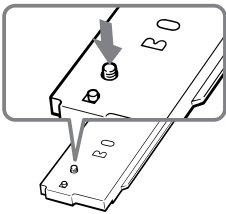
台座Bと台座Cの取り付け



台座Dと台座Cの取り付け



台座Cのはずしかた



CCD-TRV90をお使いのお客様へ
CCD-TRV90専用台座 (3-969-899-01) をソニーサービスステーションにてお買い求めいただくと、本機をご使用いただけます。
ただし、液晶画面を使ってのご使用はできません。

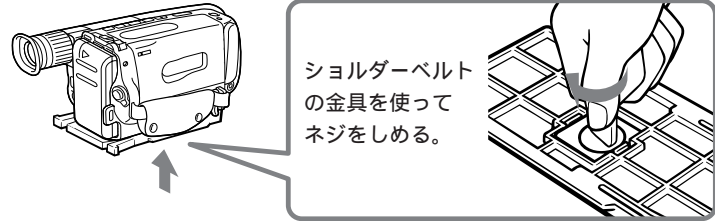
スポーツパックを使うには

液晶付きハンディカムをお持ちのお客様へ

付属のミラーフードを使うと、液晶画面を見ながら撮影することができます。
ただし、CCD-TRV30, TRV60は液晶画面を外側に向けてのご使用はできません。

1 台座を取り付ける。

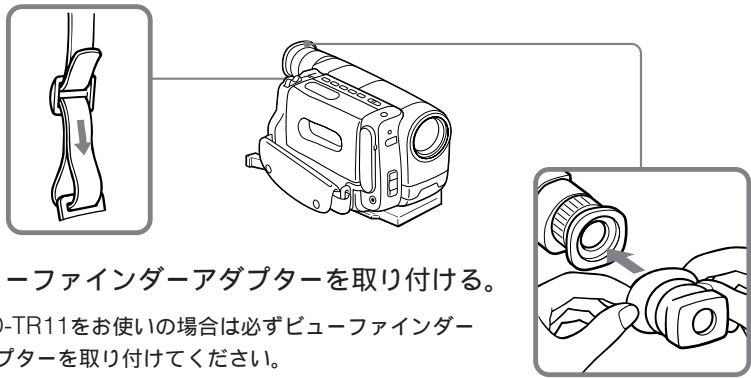
お手持ちのハンディカムの取扱説明書もあわせてご覧ください。



2 ハンディカムを準備する。

1 ショルダーベルトやレンズキャップをはずす。

MCプロテクター、NDフィルター、コンバージョンレンズ、特殊フィルターなども取りはずしてください。



2 ビューファインダーアダプターを取り付ける。

CCD-TR11をお使いの場合は必ずビューファインダーアダプターを取り付けてください。
ビューファインダーアダプターを取り付けた時にゆるかった場合はハンディカムのアイカップを折り返してから付け直してください。

3 バッテリーを取り付ける。

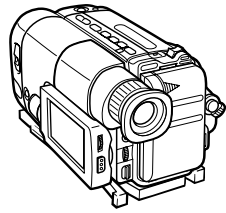
4 カセットを入れる。

5 電源スイッチを「カメラ」にする。



6 液晶画面を見ながら撮影するときは、液晶画面を外側に向けて本体に閉じる。

ただし、CCD-TRV30, TRV60は液晶画面を外側に向けて本機に取り付けられません。



7 自動調節にする。

ハンディカムの取扱説明書をご覧ください。

8 スタート/ストップモードスイッチがある場合は「止」にする。

9 ファインダーパワーセーブ機能がある場合は「切」にする。

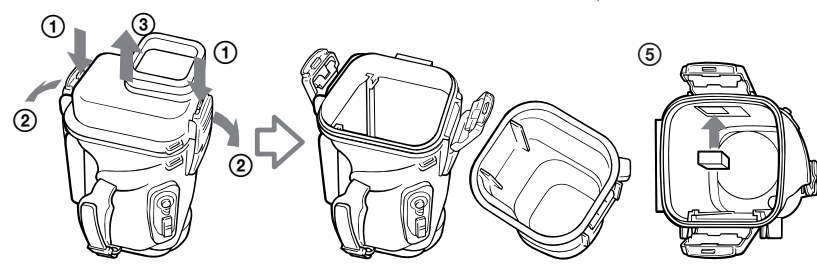
10 ハンディカムのスタンバイスイッチを「ロック」にする。

ご注意

ビューファインダーアダプターを取り付けると、ファインダー内の画面を広範囲に見られますが、見る角度によっては画面がゆがみます。

3 スポーツパックを開ける。

- ① ロック解除ボタンを押しながら
- ② バックルをはずす。
- ③ 後部ボディを開く。
- ④ ミラーフードベースを取りはずす。
ショルダーベルトの金具を使ってください。
- ⑤ CCD-TRV30, TRV60をお使いの場合は、
黒いクッションを、TR12, TR3300をお使いの場合は、
グレーのクッションを貼る。



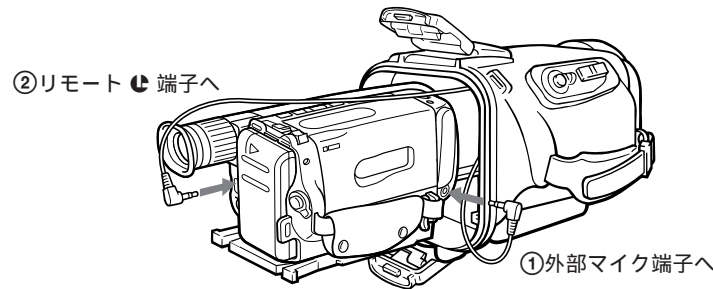
4 砂やゴミなどを取り除く。

防水パッキン、溝および本体との接触面の砂やゴミなどをきれいに取り除き、防水パッキンに薄く均一にシリコングリスを塗ります。
砂やゴミが付着したままふたを開めると、傷がついて浸水の原因になります。

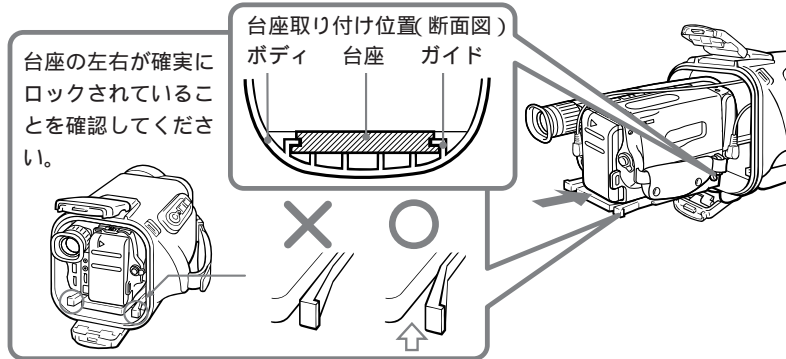
5 スポーツパックに取り付ける。

1 ハンディカムのビューファインダーを水平にする。

2 マイクプラグを外部マイク端子へ接続する (①)。
リモートプラグをリモート ㊦ 端子へ接続する (②)。



3 ハンディカムとスポーツパックを水平に保ち、台座を前部ボディ内のガイドに合わせ、台座の後部を押して、カチッとロックされるまで差し込む。

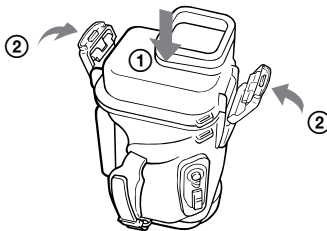


4 ハンディカムのスタンバイスイッチを「スタンバイ」にする。

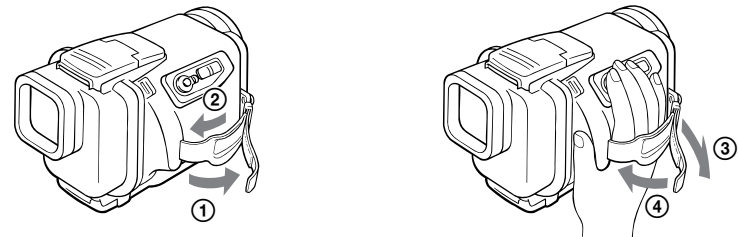


5 後部ボディを閉じる。

- ① 後部ボディを閉じて、しっかり押さえる。
- ② バックルを、カチッとロックされるまで締める。



6 グリップベルトを調節する。



- ① グリップベルトを起こし、
- ② グリップベルトをゆるめる。
- ③ 電源スイッチやSTART/STOPボタン、ズームボタンを操作できるように
手の位置を決め、グリップベルトを引っ張って調節する。
- ④マジックテープで固定する。

7 ショルダーベルトを取り付ける。



8 液晶画面を見ながら撮影する。

- 鏡面を4方向に向けて撮影できます。
ただし、ローアングル・ハイアングルでの撮影は画面が90°回転して見えます。
- ①ミラーフードを、ミラーフードベースのツメに合わせてはめる。
 - ②ミラーフードベースのツメを本体の溝にはめこむ。
 - ③ミラーフードベースのネジを締める。



6 撮影する。

1 電源スイッチを「CAMERA」にする。



ファインダー内
スタンバイ

2 START/STOPボタンを押す。

撮影が始まります。



ファインダー内
録画
点灯

3 撮影を一時的に止めるにはSTART/STOPボタンを押す。

もう一度押すと撮影が再開します。

4 撮影を止めるには、START/STOPボタンを押し電源スイッチを「OFF」にする。

ズーミングのしかた

速度が2段階に変化します。
(ハンディカムによっては速さが変わらないものもあります。)
少し押すとゆっくりズーミングし、さらに押すと速くズーミングします。



ご注意

- 撮影一時停止状態が5分以上続くと自動的に電源が切れます。バッテリーの消耗を防ぐためとテープを保護するためです。撮影スタンバイに戻すには電源スイッチを「OFF」に戻してから再び「CAMERA」にします。
- 液晶画面を外側に向けて撮影中は液晶画面にカウンターが表示されません。